

分けられている。大平 (1986, 1997) は、各亜種の形態的な比較を行ったが、亜種間に顕著な差は見いだせなかったとしているが、同時に、本種の詳しい生態は不明で、得られている個体数が少ないため検討は十分ではないともしている (大平, 1986)。本調査において本種の生息環境が判明したことで、亜種間の分類学的検討に寄与できるものと期待する。

大平 (1986, 1997) では沖縄島産の個体を検しているが、詳細な産地や個体数は記録されておらず、また明確に種名の決定を行っていない。沖縄島に隣接する慶良間諸島の前島からの記録では原名亜種で記録されているため (大平・楠井, 2005)、本稿では原名亜種として記録することとした。

## 2. イハヒメサビキコリ *Agrypnus (Colaulon) miyamotoi* ihai (Ôhira, 1967)

10exs, 沖縄県国頭郡大宜味村宮城, 17~18. VII. 2014, 筆者採集・保管。

本亜種は海岸林を持たず建造物が隣接する砂浜で採集された (図 2)。砂浜は植生に覆われ、礫が多く混在する。前種が得られた砂浜から数十 m 程しか離れていないが、本亜種は前種が得られた浜からは全く得られなかった。ヒメサビキコリ亜属 *Colaulon* のいくつかの種では、民家や堤防の近くといった人工的な場所に多くの個体が見出される例がよく知られており、本亜種も類似の生態をしていることが示唆される。

*Agrypnus (C.) miyamotoi* には 10 亜種 (原名亜種含む) が知られており (Kishii, 1999; 大平, 2004)、本亜種は与論島、沖永良部島、伊平屋島、伊江島 (模式産地)、水納島、沖縄島、ナガンヌ島、前島、渡嘉敷島、座間味島、慶留間島、渡名喜島に分布することが知られている (大平, 2004; 大平・楠井, 2005, 2006)。

## 3. ケシツブスナサビキコリ *Rismethus ryukyensis* Ôhira, 1999

1♂3♀, 沖縄県国頭郡国頭村辺戸宇佐浜, 19. VII. 2014, 伊藤玲央採集・筆者保管。

本個体は礫を含まないハマゴウなどの海浜植生に覆われた乾いた砂浜で採集された。本種はこのような環境で得られることが多いが (大平・楠井 2006; 亀澤, 2014)、海岸線の落葉層からの採集例も知られている (鈴木, 2003)。

本種の分布は長崎、熊本 (天草郡)、口永良部島、屋久島、中之島、宝島、奄美大島、喜界島、徳之島、伊是名島、瀬底島、浮原島、南浮原島、前島、慶留間島、屋嘉比島、多良間島、石垣島 (模式産地)、西表島、波照間島、与那国、緑島 (台湾) から知

られている (Suzuki, 2001; 大平・楠井, 2005; 大平・楠井, 2006; 亀澤, 2014)。

末筆ながら、調査に協力していただいた伊藤玲央氏 (大分県三重市) に厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). *Bulletin of the Heian High School*, 42: 1-144.
- 亀澤 洋, 2014. 沖縄県の瀬底島からケシツブスナサビキコリを記録. 月刊むし, (522): 56.
- Lewis, G., 1894. On the Elateridae of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6)13: 26-48.
- 大平仁夫, 1997. 日本産コハナコメツキとその近似種について (甲虫目: コメツキムシ科). 比和科学博物館研究報告, (35): 1-16, 14pls.
- Ôhira, H., 1999. New or little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XL. *Elytra*, Tokyo, 27(2): 409-416.
- 大平仁夫, 2004. 日本産サビキコリ属の形態について (III). (甲虫目: コメツキムシ科, サビキコリ属, ヒメサビキコリ属). 比和科学博物館研究報告, (43): 67-89, 17pls
- 大平仁夫・楠井善久, 2005. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ (2). 月刊むし, (412): 32-33.
- 大平仁夫・楠井善久 2006. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ (3). 月刊むし, (429): 34-39.
- Suzuki, W., 2001. New record of *Rismethus ryukyensis* (Coleoptera, Elateridae) from the Island of Luta, Taiwan. *Elytra*, Tokyo, 29(2): 464.
- 鈴木 互, 2003. 沖縄島伊是名島で採集されたケシツブスナサビキコリの記録. 月刊むし, (394): 30.
- 鈴木 互, 2013. 久米島から採集された興味あるコメツキムシについて. さやばねニューシリーズ, (10): 5-12.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)

## 【短報】九州におけるコメツキムシ属 2 種の記録

筆者らは、九州産コメツキムシ属 *Ampedus* の調査を行う中で、九州初記録種と記録の少ない 1 種を検する機会を得たので、ここに報告する。

### 1. ホソアカコメツキ *Ampedus (Ampedus) chlamydatus* (Lewis, 1894)

1♂ (図 1), 熊本県球磨郡相良村四浦, 1. IV. 2012, 成田・有本採集・有本保管; 2♂, 鹿児島県霧島市 (標高 730 m), 12. I. 2013, 成田・有本採集・有本保管。

検した個体はアカマツ *Pinus densiflora* の倒木樹皮下から得られた越冬中の成虫で、同所的に多数のアカハラクロコメツキ *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873), オオアカコメツキ *A. (A.) optabilis optabilis* (Lewis, 1894), ウバタマコメツキ *Cryptalaus berus* (Candèze, 1865) が得られた。しかし、本種と他の 3 種が同じ倒木

中から見出されたことはなかった。

本種は、神奈川県産の1雄個体を基に記載され、その後、青森県、福島県、栃木県、千葉県、東京都、山梨県、愛知県、和歌山県から記録されている (Kishii, 1999; 大平, 2004)。今回検した個体は近畿地方以西からは初めての記録である。

本種のような体型が細く上翅が暗赤褐色のグループ (仮称: *chlamydatus* group) にはいくつかの種 (例: *A. alticola alticola* Silfverberg, 1977; *A. kurama* Kishii, 1983) が知られているが、どの種も非常に珍しく、種間差・個体差・地域差は判然としない。また、本種の分布記録には明確な誤同定が含まれていることが指摘されている (大平, 2004)。今回検した個体はこれまでに得られている個体に比して、外形に大きな差は認められないが、雄挿入器の中央片がやや太く、側片先端部がより細長い、という違いが見られる。しかし、側片の形状が本州産に比して九州産において細長くなる傾向は本属のいくつかの種 (例: *A. (A.) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873)) で知られており (Kishii, 1982)、今回確認した雄挿入器の形態差も同様に地理的な変異である可能性が高いと判断した。今後、中国地方や四国で本種もしくは本種の近縁種が得られた際に、本種の形態変異の連続性について改めて考察したい。

## 2. ツシマツマグロコメツキ *Ampedus* (*Ampedus*) *kuriharai* Ôhira, 2005

1♀ (図2)、長崎県対馬市厳原町豆殿, 20 IV 2013, 成田採集・有本保管。

検した個体は、樹種不明の倒木中から得られた成虫である。本種は、1雌個体をもとに記載された



図1-2. 1. ホソアカコメツキ *Ampedus* (*Ampedus*) *chlamydatus* (Lewis, 1894), ♂, 全形; 2. ツシマツマグロコメツキ *Ampedus* (*Ampedus*) *kuriharai* Ôhira, 2005, ♀, 全形。スケール: 2.0 mm

対馬特産種であり、本個体は記載以後最初の記録である。雄は未知である。

対馬からは近縁種のツマグロコメツキ *Ampedus* (*Miwaelater*) *niponicus* (Lewis, 1894) として性別不明の1個体が記録されているが (明石, 1961)、おそらくこの個体は本種である可能性が高いと思われる。本種の触角第3節は小さい円筒形であるが、ツマグロコメツキの触角第3節は幾分大きく鋸歯状であることによって識別でき (Ôhira, 2005)、これはそのまま *Ampedus* 亜属と *Miwaelater* 亜属の識別点でもある。

上記の通り、本種とツマグロコメツキは亜属を異にするが、邦産 *Miwaelater* 亜属各種には亜属として単系統群を形成するような近縁性は無く、*Ampedus* 亜属に移されるべきものであり (有本未発表)、本種とツマグロコメツキは近縁種と考えられる。

本報告により、九州から本属種は28種12亜種 (原名亜種を含む) が記録されたことになる (Kishii, 1999; Arimoto, 2013; 堤内, 2014)。

末筆ながら、調査に協力いただいた野田亮氏 (福岡県久留米市) に厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

- 明石照男, 1961. 対馬のコメツキムシ2種. 筑紫の昆虫, 6(2): 16.
- Arimoto, K., 2013. Three new species of the genera *Ampedus* and *Limoniscus* (Coleoptera, Elateridae) from Kyushu, Japan. *Elytra*, Tokyo, new series, 3(1): 73-82.
- Kishii, T., 1982. New species and new records of Elateridae from Japan (Coleoptera) "Some new forms of Elateridae in Japan (XVI)". *Bulletin of the Heian High School*, 26: 35-55, 4 pls.
- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). *Bulletin of the Heian High School*, 42: 1-144.
- 大平仁夫, 2004. ホソアカコメツキの雄の形態について. 甲虫ニュース, 146: 9-10.
- Ôhira, H., 2005. New or little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XLVI. *Elytra*, Tokyo, 33(1): 215-218.
- 堤内雄二, 2014. 大分県のコメツキムシの記録 (4). 二豊のむし, 52: 50-52.

(有本晃一 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1  
九州大学大学院生物資源環境科学府昆虫学教室)  
(成田圭佑 九州大学 農学部)